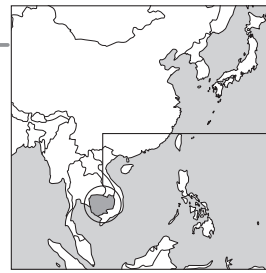


ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どもの暮らし

Cambodia

カンボジア



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



子どもたちのための場所

学ぶことが大好きな女の子

カンボジアの中央に位置するコンポントム州に暮らすスレイネッチちゃんは、小学校4年生。10歳の女の子です。おばあさん、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟の7人家族です。

学校では、国語や算数、理科、社会を勉強しています。4年生は、午前中だけしか授業がありません。カンボジアの学校は先生の数や教室の数が少ないので、学年ごとに午前と午後に分かれて勉強しているのです。

スレイネッチちゃんは学校が大好きです。「学校はいろいろなことが学べて楽しいの。でも、もっとたくさん勉強がしたいわ。」と話します。



「子どもには、勉強する権利、知る権利があるの。遊ぶ権利だってあるのよ。」

「権利はあっても、きまりを破ってはいけないだよ。」お兄さんは丁寧に教えてくれます。お兄さんたちは、スレイネッチちゃんたちが自分たちの力で未来へ羽ばたいていくことを祈っています。



将来の夢

最近、スレイネッチちゃんは、仲良しのヤイハーくんと歌の劇の練習を始めました。ヤイハーくんは、13歳の男の子です。家の事情で毎日学校へ行けなかったため、今は小学校3年生です。

歌の劇で、ヤイハー君は、お酒を飲んではお金をつかってしまうお父さんの役。スレイネッチちゃんは、「そんなことをしたらだめよ。」とお父さんに話すしっかり者のお母さんの役です。お父さんは「もうしないよ。」とお母さんに約束します。

カンボジアでは、働きもののお母さんがほとんどです。お父さんの中にはお酒を飲んで、酔っ払って、お母さんや子どもたちに手をあげてしまう人もいます。

スレイネッチちゃんは歌うのが楽しくて仕方ありません。スレイネッチちゃんは「大きくなったら、歌手になりたいな」と思っています。ヤイハーくんは「大きくなったら俳優さんになりたい」と思っています。

「大きくなったら、いっしょにお仕事をしたいね。」二人の夢は広がります。

放課後のクラブ

最近、学校の近くに、勉強だけでなく歌や踊りを教えてくれる、子どもたちのためのクラブができました。

スレイネッチちゃんは大喜びです。クラブが開かれているときはいつも通っています。クラブには、日本のお友だちが折ってくれたたくさんの折り紙がかざってあります。とてもきれいで、スレイネッチちゃんも「いつか作ってみたいなあ。」と思っています。

プノンペンの大学やコンポントム州の高校へ行っているお兄さんたちが、子どもたちにいろいろなことを教えてあげたい、と思ってこのクラブをつくりました。ユニセフもこのクラブを応援しています。クラブには7歳から13歳までの、午前中で学校が終わった子どもや、学校へ通っていない子どもたちが集まってきます。お兄さんたちは本を読んでくれたり、勉強を教えてくれたり、カンボジアの歌や踊りを教えてくれます。お兄さんたちは物知りで優しく、みんな大好きです。クラブでは、みんなでサッカーやバレーボールをして遊んだり、ポスターや絵本を使って「子どもの権利」について学んだりします。子どもの権利の勉強は少しむずかしいです。でも、スレイネッチちゃんは、たくさんの権利を知っています。



<文・構成：(財)日本ユニセフ協会>

物語の国
カンボジア

カンボジアはタイ、ベトナム、ラオスに囲まれたインドシナ半島にある国で、世界遺産の「アンコールワット」のある国として知られています。面積は日本の約半分ほどです。人口は約1,400万人で、そのうちの43%を子どもが占める子どもの多い国です。

©日本ユニセフ協会
カンボジアの子どもたち



カンボジアの子どもたちの笑顔を守る

カンボジアの抱える問題



©日本ユニセフ協会 図書館で夢中になって本を読む子どもたち

カンボジアは、1970年から1990年にかけて内戦や武力紛争があり、多くの教師や医師などの知識人が虐殺され、本などの書物も処分されました。平和への道を歩み始めて20年が経ちますが、今なお、教師が足りず、図書館や本の数も不足しています。

また、首都プノンペンなどの都市とその他の農村地域との格差が大きいことも、カンボジアの抱える問題の一つです。特に、適切な衛生施設を利用する人の割合は、都市部では62%ですが、農村部では19%と少なくなっています。改善さ

れた水源を利用する人の割合も、都市部の80%に対し、農村部では61%と大きな格差が見られます。医療に関しても、特に農村部では保健センターへのアクセスが悪いことから多くの人が医療サービスを十分に受けられていない状況です。

カンボジアの子どもの状況

(より詳しい統計は「世界子供白書 特別版」をご覧ください。)

項目	カンボジア	日本
5歳未満児死亡率(1,000人あたり、2008年)〔人〕	90	4
改善された水源を利用する人の割合(全国、2006年)〔%〕 *都市と地方では格差があります。	65	100
適切な衛生施設を利用する人の割合(全国、2006年)〔%〕 *都市と地方では格差があります。	28	100
平均余命(2008年)〔歳〕	61	83
一人あたりの国民総所得(2008年)〔米ドル〕	600	38,210

出典:「世界子供白書 特別版」(英語版をHPでご紹介しています。日本語版は現在製作中。)

農村の子どもたちへのユニセフの支援活動

長く続いた内戦が終結し、国の復興をめざすカンボジアで、厳しい生活をおくる農村の子どもたちの健康を促進するために、ユニ

セフは、予防接種や育児観察、村の人々の主導的な取り組みによる安全な水や衛生的なトイレの普及、幼稚園教育の充実など、子どもを守る事業を実施しています。この支援活動は、人々が事業の意味や目的を理解しやすいように「セッコマー」(クメール語で「子どもの権利」を意味する)プログラムと名づけられ、呼ばれています。

予防接種と育児観察

カンボジアの子どもたちが元気に生まれて育っていくように、ユニセフは、妊産婦と5歳未満の子どもたちの健康を守るために活動しています。コンポントム州の予防接種会場では、月に1回、小学校の校庭を使用して、妊産婦と5歳未満の子どもを対象に出産後の指導、保健指導、ワクチン接種(BCG、ポリオ、B型肝炎、DTP、水痘瘡、はしか)を出張サービスで行っています。活動を始めた当初は、予防接種会場にはまったく人が集まりませんでした。今では、この地域に暮らすお母さんのほとんどがこのサービスを利用しています。



©日本ユニセフ協会 予防接種を受けるお母さん。会場にはたくさんの人が集まり、お祭りのようにぎやがさ

送水管システムとトイレ設置のためのワークショップ

コンポントム州のチューティアル村では、ユニセフの支援で井戸をつくるために地面を掘ったところ、高さ2メートルほどに水が噴き出したため、その水圧を利用した送水管をつくりました。村では委員会をつくり、パイプの水漏れがないか確認し、村人が水の無駄遣いをしないよう指導をしています。村の人たちは初期費用として月1万リエル(約240円)を負担し、維持費として月500リエル(約12円)を支払っています。村では薪売りなどによる現金収入があるため、維持費は特に負担とはなっていません。噴水場所から遠い家では、水圧が十分でないため送水管が利用できないので、近くにある井戸を使用しています。現在、村ではトイレを作る活動に取り組み始めました。カンボジアでは、多くの人が穴を掘った場所や、森や川などの野外で用を足しています。しかし、飲み水の汚染の原因になるため、ユニセフのスタッフがトイレをつくるのが大切な理由やトイレの種類、作り方について講習会を開いています。



©日本ユニセフ協会 地域で管理している送水管

地域の幼稚園

子どもたちは、幼稚園で色々なことを学び体験することで、小学校での学習生活に早く慣れ、中途退学が減るといった効果ができています。すべての子どもが小学校へ入学し卒業できるように、ユニセフは「地域の幼稚園」への支援を行っています。「地域の幼稚園」は、クメール語でコミュニケーションと呼ばれている「地域」が運営している幼稚園です。コンポントム州スノー村にある幼稚園は、先生の家(カンボジアの住居は高床式)を借りて行われています。週5回、朝7時から9時まで開かれていて、約20名の子どもたちが通っています。折り紙や子どもたちの描いた絵がいっぱい貼られた教室で、子どもたちは絵を描いたり、字の書き方や簡単な計算などを楽しんで学んでいます。



©日本ユニセフ協会 先生を家の床下を借りて開かれている幼稚園。バナナの絵に色をつける子どもたち

カンボジア指定募金のご案内

「農村の子どもにより良い生活を」

カンボジアの子どもたちへの支援事業は、日本全国の学校からご協力いただく募金によって支えられています。

カンボジア指定募金

口座番号 00190-5-31000

加入者名 財団法人 日本ユニセフ協会

通信欄に「カンボジア」と記入してください。

*送金手数料免除(窓口振込のみ)

カンボジア指定募金資料キット

学習や募金活動資料として、「資料キット」の貸し出しを行っています。カンボジアの子どもたちの生活やユニセフの活動をわかりやすく紹介していますので、ぜひご活用ください。

【指定募金資料キット】

1. 事業の背景・解説(CD-ROM含む)
2. ビデオ「My World」
3. 掲示用写真資料 11枚
4. 布製保健教育用教材
5. 小学生用教科書(2冊)

貸し出しをご希望の方は、学校事業部へお問い合わせください。

TEL:03-5789-2014

●全国の教職員が参加し、2009年7月に実施されたカンボジアスタディツアーの報告をホームページでご紹介しています。

http://www.unicef.or.jp/children/study_tour/2009/ca_studytour_index.htm